

躯体構造検査

実施日	2020-09-16	
登録物件名	〇〇様邸	002
事業者名	会社〇〇	
事業者立合者	近藤 卓也	
報告者	近藤 卓也	
総合判定	適合	

【凡例】「方法」欄 A:目視確認 B:計測確認 C:書類確認（設計図書含む）

「判定」欄 ○:適 ×:不適 -:該当なし（登録設計図書に記載がない場合を含む）保留:判定保留

※目視・計測可能な部位で抽出確認し、保険の適否を判定します。

1.基礎

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
1-1	人通口 幅500mm以上600mm以下高さ330mmか			B	○
1-2	著しいジャンカ、空洞及び亀裂等が発生していないか			A	○
1-3	基礎立上りの高さ400mm以上か幅150mm以上か			B	○

【備考】

2.土台 大引き アンカーボルト

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
2-1	アンカーボルト間隔は基礎伏図通りか			B	○
2-2	アンカーボルトのコンクリートへのめり込み250mm以上か			B	○
2-3	アンカーボルト首の出105mm以内か			B	○
2-4	保持は正確に行い移動、下部の揺れなどのないように固定されているか			A	○
2-5	適切な金物が使用されているか			A	○
2-6	座掘りは深すぎないか（50mm以内の深さ）			B	○
2-7	基礎と土台は一致して基礎の長さに不足はないか			A	○

2-8	基礎パッキン、気密パッキンどうしに隙間がないか			A	○
2-9	水準器を使い土台が水平確認			A	○

【備考】

3.床束

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
3-1	大引、床束、束石に浮はないか しっかりと固定されているか			A	○

【備考】

4.床下張り

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
4-1	CN50（緑）中間部200mm 外周部150mm間隔か合板厚15mm以上はCN65が望ましい			B	○

【備考】

5.外壁下張り

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
5-1	C N 50（緑）外周部 100mm 中間部200mm			B	○
5-2	釘のめり込み具合確認2mm以内か			B	○
5-3	接合金物の種類・位置 建物・図面を確認			A	○

【備考】

6.壁張り（内側）

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
6-1	GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm内側に			B	○

【備考】

7.野地板張り

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
7-1	CN50F（緑）外周部 1 5 0 mm以下 中間部 3 0 0 mm以下か 図1参照			B	○

7-2	内側から見て屋根に外し釘がないか			A	○
7-3	屋根 勾配は適切か			A	○

【備考】

8.屋根防水

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
8-1	防水シートの施工は完了しているか			A	○
8-2	防水シートの重ね代上下方向 100mm以上 左右方向200mm以上か			B	○

【備考】

9.耐久性

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
9-1	構造材は含水量19%以下か 乾燥材は含水量25%以下の未乾燥材か			B	○

【備考】

10.防腐防蟻措置

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
10-1	範囲G L + 1 m処理されているか			B	○

【備考】

特記事項

--

1-1口人通口 幅500mm以上600mm以下 高さ330mmか(1/2)

備考



チェックポイント
□□スケールを用
いて確実に計測を
行う

1-1口人通口 幅500mm以上600mm以下 高さ330mmか(2/2)

備考



チェックポイント
□□スケールを用
いて確実に計測を
行う

1-2口著しいジャンカ、空洞及び亀裂等が発生していないか(1/2)	備考 チェックポイント □□基礎部分の周囲全部を確認して、著しいジャンカ、空洞及び亀裂等が発生していないか確認を行う
1-2口著しいジャンカ、空洞及び亀裂等が発生していないか(2/2)	備考 チェックポイント □□基礎部分の周囲全部を確認して、著しいジャンカ、空洞及び亀裂等が発生していないか確認を行う



1-3口基礎立上りの高さ400mm以上か幅150mm以上か(1/2)

備考



チェックポイント
□□スケールを用
いて、確実に全箇
所計測を行う

1-3口基礎立上りの高さ400mm以上か幅150mm以上か(2/2)

備考



チェックポイント
□□スケールを用
いて、確実に全箇
所計測を行う

2-1□アンカーボルト間隔は基礎伏図通りか

備考



チェックポイント
□□アンカーボルト間隔は基礎伏図通りか、図面を確実にチェックして計測を行う

2-2□アンカーボルトのコンクリートへのめり込み250mm以上か

備考



チェックポイント
□□アンカーボルトのコンクリートへのめり込み250mm以上か、計測を確実にを行う

基準値
250mm
実測値
250mm

2-3口アンカーボルト首の出105mm以内か

備考



チェックポイント
□□アンカーボルト首の出105mm以内か、確実に全箇所計測を行う

基準値
105mm
実測値
105mm

2-4口保持は正確に行い移動、下部の揺れなどのないように固定されているか

備考



チェックポイント
□□保持は正確に行い移動、下部の揺れなどのないように固定されているか、全面を確認を行う

2-5口適切な金物が使用されているか(1/2)

備考



チェックポイント
□□適切な金物が
使用されているか
、全体を確認する

2-5口適切な金物が使用されているか(2/2)

備考



チェックポイント
□□適切な金物が
使用されているか
、全体を確認する

2-6口座掘りは深すぎないか（50mm以内の深さ）

備考



チェックポイント
□□座掘りは深すぎないか、全箇所確認を行う

基準値
50mm以内
実測値
50mm

2-7口基礎と土台は一致して基礎の長さに不足はないか

備考



チェックポイント
□□ 基礎と土台は一致して基礎の長さに不足はないか、全体を確認する

2-8□基礎パッキン、気密パッキンどうしに隙間がないか

備考



チェックポイント
□□基礎パッキン
、気密パッキンど
うしに隙間がない
か、確実に全体の
確認を行う

2-9□水準器を使い土台が水平確認(1/2)

備考



チェックポイント
□□水準器を使い
土台が□水平確認

2-9口水準器を使い土台が水平確認(2/2)

備考



チェックポイント
口水準器を使い
土台が口水平確認

3-1口大引、床束、東石に浮はないか しっかりと固定されているか

備考



チェックポイント
口大引、床束、
東石に浮はないか
しっかりと固定
されているか、実
際に力を加えて確
認を行う

4-1口CN50（緑）中間部200mm 外周部150mm間隔か合板厚15mm以上はCN65が望ましい

備考



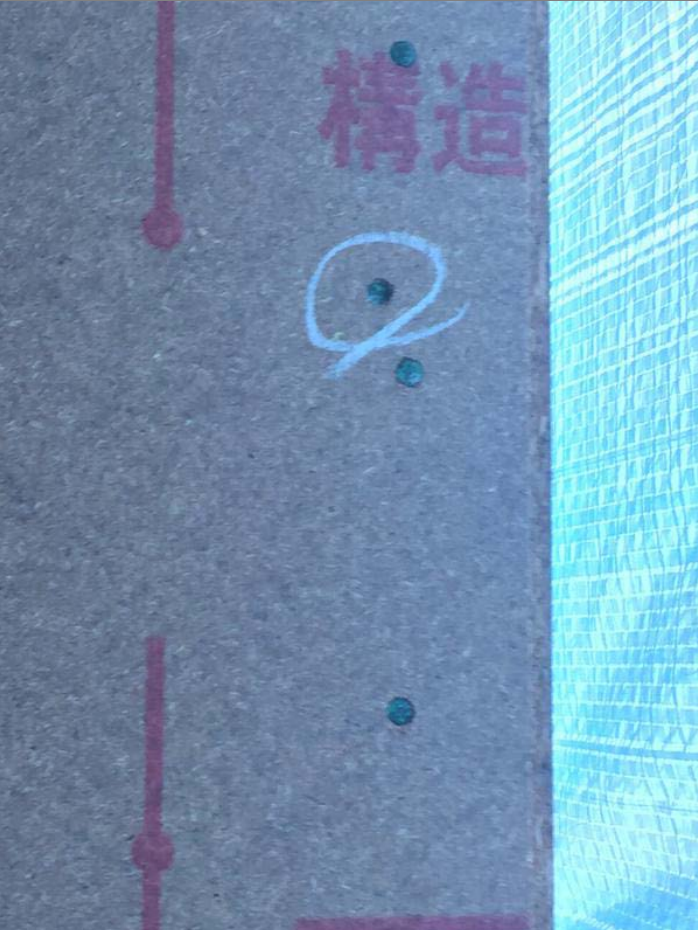
チェックポイント
口口全体を確実に確認する

5-1口CN50（緑）外周部 100mm 中間部200mm

備考



チェックポイント
口口全箇所の確認を確認を行う

5-2口釘のめり込み具合確認2mm以内か	備考
	<p>チェックポイント</p> <p>□□釘全部を確認 を行い、不足やめ り込みすぎがない か確認を行う</p>
	<p>基準値 2mm 実測値 2mm</p>

5-3口接合金物の種類・位置 建物・図面を確認	備考
	<p>チェックポイント</p> <p>□□図面と照らし 合わせ、確実に接 合金物が施工され ているか確認を行 う</p>

<p>6-1□GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm内側に</p>	<p>備考</p>
	<p>チェックポイント □□スケール等も 用いて、確実な施 工が行われている か確認を行う</p>
<p>7-1□CN50F（緑）外周部150mm以下 中間部300mm以下か 図1参照</p>	<p>備考</p>
	<p>チェックポイント □□スケール等も 用いて、確実な施 工が行われている か確認を行う</p>

7-2口内側から見て屋根に外し釘がないか

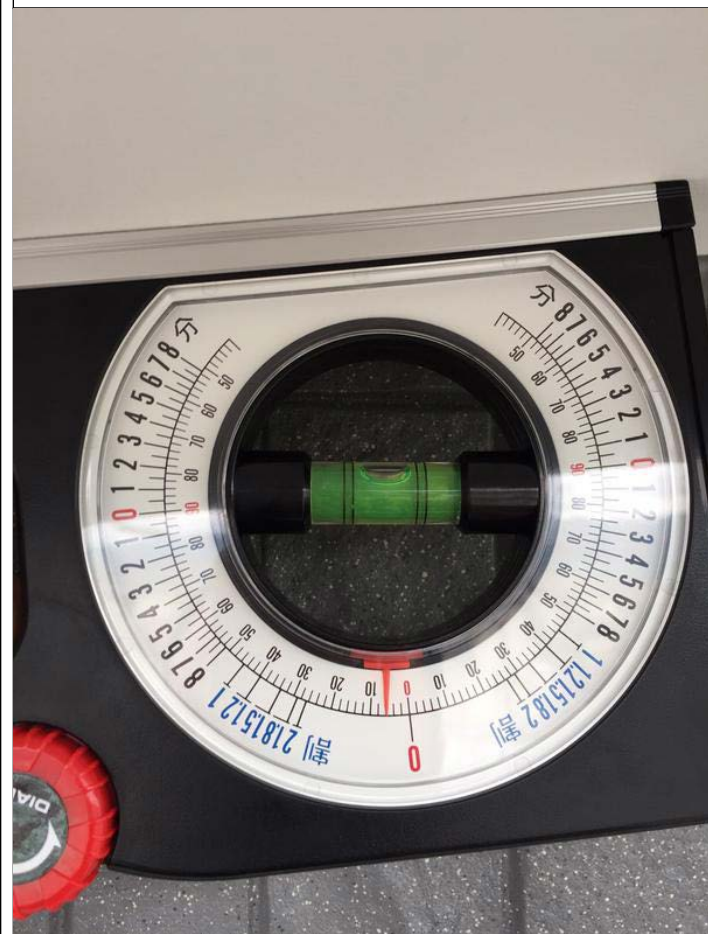
備考



チェックポイント
□□内側から見て
屋根に外し釘がな
いか、全ての箇所
を確認する

7-3口屋根 勾配は適切か

備考



チェックポイント
□□ 屋根 勾配
は適切か、水準器
を用いて確認を行
う

8-1口防水シートの施工は完了しているか

備考



チェックポイント
□□屋根全体の確認を行う

8-2口防水シートの重ね代上下方向 100mm以上 左右方向200mm以上か

備考



チェックポイント
□□スケールを用いて確認を行う

<p>9-1 構造材は含水量19%以下か 乾燥材は含水量25%以下の未乾燥材か</p> 	<p>備考</p> <p>チェックポイント □□水分計を用いて確実に計測を行う</p>
--	---

<p>10-1 範囲G L + 1 m処理されているか(1/2)</p> 	<p>備考</p>
---	-----------

10-1 範囲G L + 1 m処理されているか(2/2)

備考

